

開講年度	2022年度	科目開講学部・学科	全学共通教育						
授業科目名	フューチャーセンター入門 (Introduction to Future Center)								
担当教員	益川浩一、大宮康一、塚本明日香、後藤誠一、伊藤浩二、二村玲衣								
科目区分	教養科目		科目分類		岐阜学				
対象学年	1年生～	授業の形態	講義	単位数	2	履修コード	2ZGF440580	科目ナンバリング	
開講学期・時間割・教室	後学期 月曜日 5時限								
備考1									
シラバスURL									
授業概要	この授業では、実践・グループワークを通して自発的な学びにより、自分たちで多様な人たちが集まる「対話の場」を作り上げることを目指す。 フューチャーセンター (Future Center) とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ (課題) について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「対話の場」のことを指す。 授業は、座学とあわせてグループワーク (実践) を軸とした講義形式である。 まず、フューチャーセンターに関する基本的な知識や手法、事例を学び基礎的な素養を習得し、多様な人たちが集う対話の場 (フューチャーセンター) を実践 (企画立案から実施) する。そして、地域など身近にある課題の抽出や解決に向けたフューチャーセンターの活用方法や有効性について理解を深め、地域を志向するための実践的な能力を身につける。								
到達目標	①フューチャーセンターの基本的な知識や事例を学び、理解を深める。 ②「対話の場」としてのフューチャーセンターの活用方法や有効性について実践を通し理解を深める。 ③フューチャーセンターを自ら企画・立案し、実施するための能力を身につける。 ④フィードバックから課題、改善策を見出し、次の実践を改善・向上させる能力を身につける。 ⑤対話やワークショップにおけるファシリテーション能力を身につける。								
授業計画と準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・フューチャーセンター (FC) とは/アイスブレイクをやってみよう 2. ファシリテーションとは/ファシリテーターをやってみよう 3. KJ法とは/KJ法を使ってフューチャーセンターをやってみよう 4. フューチャーセンターの企画の立て方 5. 実際のフューチャーセンター (地域協学センター等主催) に参加する (日程は適宜提示する) 6. フューチャーセンター (学内) の企画/課題・テーマの検討 7. フューチャーセンター (学内) の企画/対話の内容の検討 8. フューチャーセンター (学内) の企画/当日の流れの検討 9. 1回目フューチャーセンターの実施 (学内の参加者) 10. フューチャーセンターの振り返り 11. フューチャーセンター (学外) の企画/課題・テーマの検討 12. フューチャーセンター (学外) の企画/対話の内容の検討 13. フューチャーセンター (学外) の企画/当日の流れの検討 14. 2回目フューチャーセンターの実施 (学外の参加者も含む) 15. フューチャーセンターの振り返り・発表準備 16. 活動発表 								
授業の特色	●	討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表						●	ゲストスピーカーの招聘
		フィールドワーク、インターシップ、ものづくり等の体験型学習						●	AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援
	●	図書館やラーニングcommonsなど、教室以外の場所を活用							レポートの添削や提出物の返却
	●	その他 (主体的なグループ形成とグループワーク)							
学び・つながりを促す取組									
使用言語	使用言語				TA,SA 配置予定				
TA,SA 配置予定	日本語	英語	その他	その他の場合の使用言語		TA	SA	その他	その他の場合の配置予定
	●						●		
基盤的能力	1. 基盤的能力に関する重点指導項目								
専門的能力	進める力	●	計画力	●	実行力	●	管理力		
	伝える力	●	傾聴力	●	発信力	●	状況把握力		
	考える力	●	課題発見力	●	創造的思考力	●	論理的思考力		
	2. 専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導								
授業時間外の学習	①フューチャーセンターのテーマや地域の課題等に関する基本的な情報収集・調査を行う。 ②フューチャーセンター開催に際し事前に開催方法等について学習する。								
成績評価	①授業参加姿勢(20%)、②FCの理解・参加度(30%)、③グループ演習(30%)、④活動報告(20%)								
到達度評価方法	①授業参加姿勢、②FCの理解・参加度、③グループ演習、④活動報告に基づき、「達成目標」に記述した「自らFCを企画・立案・実施する」ための必要な知識・スキルの習得、および地域を志向する積極的な姿勢について達成度を評価する。								
テキスト	No	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN			
	1	『フューチャーセンターをつくろう』	野村恭彦	プレジデント社	2012				
	2								
	3								
	(詳細)								
参考文献	No	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN			
	1								
	2								
	3								
	(詳細)								
備考	この講義は、原則、すべて対面で行う。 ・講義内容 (実践) によっては学外で行うこともある。 ・月曜日の5限を基本とするが実践・演習の実施状況に応じて変則的に開講することもある。								